

シンポジウムの概要

開会

講演の部

1 基調講演：EUの農業環境政策：我が国の生物多様性保全政策へのインプリケーション

学習院女子大学国際文化交流学部教授 荘林幹太郎

生物多様性条約の下、ヨーロッパをはじめとする各国では、農業に有用な生物多様性が持続的な農業を実現するための重要な資源の一つとして認識され、農業に有用な生物多様性を活用した農業へ転換する理由、評価手法等が示されるとともに、農業に係る生物多様性を高める取り組みが開始され、その実践に対する環境支払も行われています。本講演では、EUにおける農業環境政策を例に、環境支払とその要件設定の関係について、わかりやすく説明します。

2 研究報告：

(1) プロジェクトの概要

農林水産技術会議事務局研究開発官（環境）

(2) 取り組み事例1：「和歌山県のナスにおける指標開発」

和歌山県農林水産総合技術センター 井口雅裕

(3) 取り組み事例2：兵庫県豊岡市の水田地域における指標開発

～「コウノトリ育む農法」の科学的評価に向けて～

兵庫県立農林水産技術総合センター 須藤健一

本プロジェクトは、農法・農業技術別に、「ほ場単位」と「集落単位」で生物種の生息状況を調査し、環境保全型農法で特徴的に現れる生物を指標として選抜することを目的としています。ここでは、現在のプロジェクトの進捗状況について、地域での環境保全型農業の取り組みとともに説明します。

3 話題提供：アジア太平洋昆虫学会議におけるプロジェクト成果発表報告

農業環境技術研究所 田中幸一

10月18～22日に北京で開催されたアジア・太平洋昆虫学会議において、本プロジェクトの成果を多数発表しましたので、その概要と海外の研究者との意見交換の内容について説明します。

ポスター発表の部

全国規模で実施しているプロジェクトのこれまでの成果を課題毎にポスターで展示します。また、調査方法やそこで得られた生物なども展示し、参加者と担当者の意見交換を行います。

閉会